



発行所  
日刊自動車新聞社  
東京都港区芝大門1丁目10番11号  
購読料 1カ月5343円+税  
電話 東京(03)5777-2351代表  
©日刊自動車新聞社2016

8月29日  
(月曜日)

# 高校奨学生と保護者の集い

公益財団法人交通遺児育英会  
(清水司会長、東京都千代田区)

はこのほど、「平成28年度高校奨学生と保護者のつどい」を東京都内のホテルで開催した。写真。全国の高校奨学生とその保護者や兄弟姉妹を中心に約150人が参加し、先輩奨学生・保護者の講演会やグループワークゲームを通じた交流を図った。

冒頭、同会の菅谷定彦理事長が「このつどいは、昭和45年以来継続している歴史のある大切な行事だ。昨年よりACジャパンの支援で当会のテレビCMを流しているが、反響は大きく、募金が増えている。今年7月からは第2弾のCMを流しており、期待している。今回のつどいを生きていく勇氣を得る一助としてほしい」とあいさ

## 交通遺児育英会



つした。  
講演会では、先輩奨学生の立場から宮澤直也さん、交通遺児の保護者の立場で中本悦子さんが、そ

## 全国から150人参加し交流

れぞれ体験談を語った。

宮澤さんは、現在東京の大学の4年生で、同会が運営する学生寮「心塾」の塾生だ。3歳の時に父親を交通事故で亡くした宮澤さんは「父親の顔は覚えているが、思い出はない。中学・高校の部活動をはじめ、多くの人に支えられて生きてきた。特に親に感謝することを忘れてはいけない。何かにチャレンジし、失敗を成長、成功につなげてほしい」と話した。

中本さんは、夫をオートバイ事故で亡くし、3人の娘を育てた。つどいへの参加は今回で5回目となる。中本さんは「母子家庭として、近所や親族の目、世間からの好奇の目にさらされて辛かったが、つどいで皆の話を聞いて前向きになった。当たり前のことが、ある日突然そうでなくなることを思い知らされた。今後は自分の痛みも他人の痛みも身をもって経験した自分達にしか伝えられないことを伝えていきたい」と語った。

日刊自動車新聞社が記事利用を許諾しています。